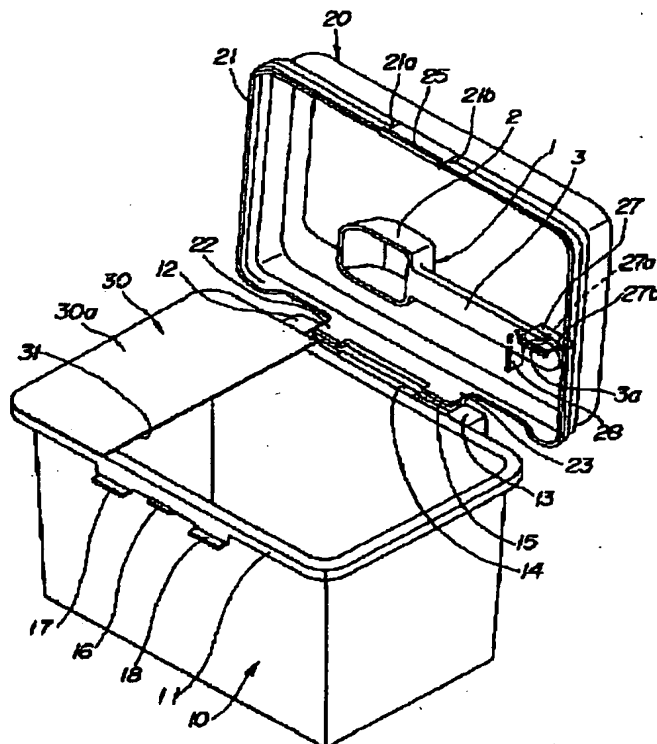


Patent Abstracts of Japan

TITLE : CONTAINER FOR POWDER AND GRANULAR SUBSTANCE



SOLUTION: Approximately cylindrical fitting members 22, 23 are integrally formed with a periphery 21 on one of longer sides of a lid 20 and are fitted to hold a shaft member 15 provided on a container body 10 inside, thereby rotatably pivoting the lid 20. An engaging part 25 of a locking part 16 of the container 10 is integrally formed via cuts 21a, 21b at the center of the periphery 21 on the other longer side, while protrusions 17, 18 which serve as points of action of fingers when the lid 20 is to be unsealed are made to protrude on both sides of the locking part 16. Thus constituted, if the container 10 is lifted with the lid 20 held after unsealing, the fitting members 22, 23 rigidly hold the shaft member 15, so that the container body 10 can be reliably supported.

COPYRIGHT: (C)2001,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2001-19006

(P2001-19006A)

(43) 公開日 平成13年1月23日 (2001.1.23)

(51) Int.Cl.⁷

B 6 5 D 43/16

51/24

識別番号

F I

B 6 5 D 43/16

51/24

ターム(参考)

Z 3 E 0 8 4

F

審査請求 未請求 請求項の数 6 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号

特願平11-191838

(22) 出願日

平成11年7月6日 (1999.7.6)

(71) 出願人 000007897

大日本印刷株式会社

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

(72) 発明者 林 正保

東京都新宿区市谷加賀町一丁目1番1号

大日本印刷株式会社内

(74) 代理人 100090893

弁理士 渡邊 敏

Fターム(参考) 3E084 AA05 AA14 AA24 AA26 AB07

BA02 BA05 CA03 CC03 CC05

DB13 DC03 DC05 FA08 FC04

FD13 GA06 GB06 GB08 GB13

HA03 HB01 HD01 JA02 JA07

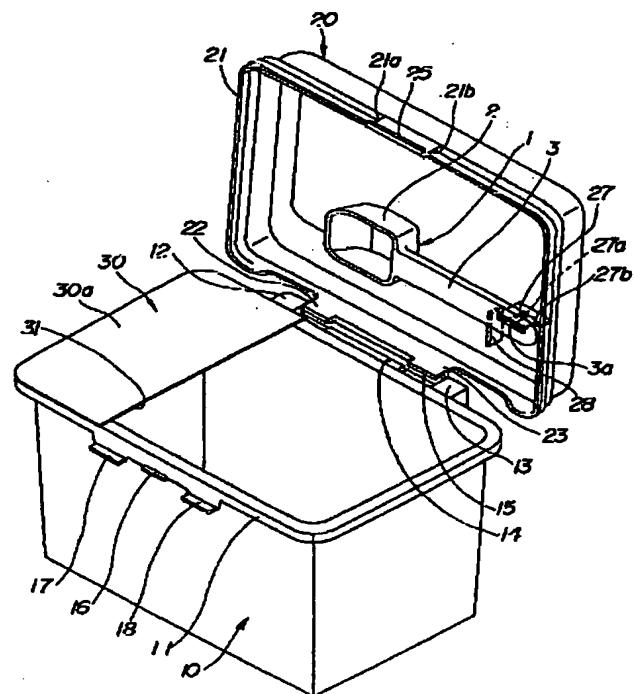
KA12 KA15 KB10 LA01

(54) 【発明の名称】 粉粒体用容器

(57) 【要約】

【課題】 組立性を損なうことなく容器本体と蓋体との枢支部の嵌合を堅固にできる粉粒体用容器を得ることを課題とする。

【解決手段】 粉粒体の包装に用いられる容器本体と蓋体とからなる容器であって、容器本体の縁部に付設した軸部材に、蓋体の縁部に形成した略筒状の嵌入部材を嵌入させることによって、蓋体を容器本体に対して回動可能に枢支する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 粉粒体の包装に用いられる容器本体と蓋体とからなる容器であって、容器本体の縁部に付設した軸部材に、蓋体の縁部に形成した略筒状の嵌入部材を嵌入させることによって、蓋体を容器本体に対して回動可能に枢支したことを特徴とする粉粒体用容器。

【請求項2】 前記容器本体の縁部に、前記蓋体の縁部に形成された係合部を係止する係止部を突設するとともに、該係止部の両側に突起部を突設したことを特徴とする請求項1に記載の粉粒体用容器。

【請求項3】 前記容器本体をフィルム状の蓋材で封緘し、該蓋材に、開封時にその一部が残ったままになるような開封手段を設けたことを特徴とする請求項1又は2に記載の粉粒体用容器。

【請求項4】 前記蓋体の内面に、計量用スプーンを位置固定する抑止部材を突設したことを特徴とする請求項3に記載の粉粒体用容器。

【請求項5】 前記蓋体を透明にしたことを特徴とする請求項4に記載の粉粒体用容器。

【請求項6】 前記蓋体の内面に突設した抑止部材に、計量用スプーンが保持されるように構成したことを特徴とする請求項4又は5に記載の粉粒体用容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、主に粉末状洗剤等の粉粒体の包装に用いられる容器本体と蓋体とからなる粉粒体用容器に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、主に粉末状洗剤等の粉粒体の包装に使用されている合成樹脂製の容器には略直方体形状の容器本体とそれに被装する蓋体とからなるものがある。そして、その蓋体は周縁部に設けられた任意の嵌合手段によって容器本体の上縁部に被装されるが、中には容器本体に蓋体の一部を枢支して、その枢支部を中心に回動可能に構成されるものがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかしながら、容器本体に対して蓋体を回動可能に枢支させているものは、組立性を考慮するために、その枢支部の嵌合が脆弱な場合があり、例えば蓋体しか持たずに持ち上げてしまったときに中の粉粒体が多量に残っていた場合には、蓋体が容器本体から簡単に外れてしまい、時として中の粉粒体を周囲にまき散らす不具合が発生するおそれがある。そこで、本発明は、組立性を損なうことなく容器本体と蓋体との枢支部の嵌合を堅固にできる粉粒体用容器を得ることを目的とするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】以上のような目的を達成するために、本発明は、次のような粉粒体用容器を提供するものである。すなわち、粉粒体の包装に用いられる

容器本体と蓋体とからなる容器であって、容器本体の縁部に付設した軸部材に、蓋体の縁部に形成した略筒状の嵌入部材を嵌入させることによって、蓋体を容器本体に対して回動可能に枢支したことを特徴とする粉粒体用容器である。そして、容器本体の縁部に、蓋体の縁部に形成された係合部を係止する係止部を突設するとともに、その係止部の両側に突起部を突設したことを特徴とするものである。

【0005】また、容器本体をフィルム状の蓋材で封緘し、その蓋材に、開封時にその一部が残ったままになるような開封手段を設けたことを特徴とするものであり、蓋体の内面に、計量用スプーンを位置固定する抑止部材を突設し、その蓋体を透明にしたことを特徴とするものである。そして、蓋体の内面に突設した抑止部材に、計量用スプーンが保持されるように構成したことを特徴とするものである。

【0006】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を図面に示す実施例を基に説明する。図1は本発明にかかる容器の開封前の状態を示す斜視図であり、図2は同じく開封後の使用状態を示す斜視図である。また、図3は容器本体の平面図であり、図4は蓋体の平面図である。そして、図5は容器本体と蓋体の枢支部を示す概略背面図、図6は同じく概略側断面図であり、図7は容器本体と蓋体の係合部を示す概略正面図、図8は同じく概略側断面図である。本発明にかかる容器は、容器本体(10)と蓋体(20)とから構成され、主に粉末状洗剤等の粉粒体の包装に使用される容器であって、ポリプロピレン(以下、PPと略す)などの合成樹脂で成形されるものである。

【0007】そこで、まず、容器本体(10)から説明すると、この容器本体(10)は、図1、図2で示すように、所定の高さを有する略直方体形状に成形され、その一方の長辺側の上縁部(11)外側には、図3で示すような軸部材(15)が両端の支持部材(12)(13)と中央の補強部材(14)を介して一体的に設けられている。そして、それと対向する他方の長辺側の上縁部(11)外側中央には後述する蓋体(20)の係合部(25)が係止される係止部(16)が突設され、更にその係止部(16)の両側には蓋体(20)を開封するときの手指の作用点となる突起部(17)(18)が所定間隔を隔てて突設されている。また、支持部材(12)(13)の下部には、図5で示すように、縦長の補強リブ(12a)(13a)が一体的に設けられている。

【0008】蓋体(20)は、図2で示すように、その周縁部(21)が容器本体(10)の上縁部(11)を覆うように拡げられて形成され、一方の長辺側の周縁部(21)には容器本体(10)の軸部材(15)に嵌入させる略筒状の嵌入部材(22)(23)が一体的に形

成されている。この嵌入部材(22)(23)は、図4乃至図6で示すように、所定間隔を隔てた両端部に所定幅(W)で形成されており、容器本体(10)に設けた軸部材(15)を抱え込むように嵌入されて、容器本体(10)に対して蓋体(20)が回動自在に枢支されるようになっている。なお、この嵌入部材(22)(23)は、蓋体(20)の頻繁な回動に耐え得るように補強されるのが好ましく、図5で示すように、嵌入部材(22)(23)の間の中央部分(24)よりも肉厚に形成されている。

【0009】また、図1、図2及び図7、図8で示すように、嵌入部材(22)(23)が設けられた長辺側と対向する他方の長辺側の周縁部(21)中央には、容器本体(10)の係止部(16)に係止される係合部(25)が切込部(21a)(21b)を介して一体的に形成されている。この係合部(25)の内側には係止部(16)に係止される突起部(26)が突設されており、突起部(26)が係止部(16)に係止されることによって、容器本体(10)に被装された蓋体(20)が不用意に開かないように構成されている。なお、突起部(26)を係止部(16)に係止させるときには、PPなどの合成樹脂で成形されていることによる弾性を利用して、突起部(26)に係止部(16)を乗り越えさせて係止させる。

【0010】このような係合部(25)と突起部(17)(18)によれば、係合部(25)と、どちらか一方の突起部(18)を、例えば右手の親指と人差し指とで互いに反対方向に図1の矢印方向へ弾くように操作することで、容易にその突起部(26)を係止部(16)から外すことができるようになる。したがって、従来、両手でもって開封することの多かった粉末状洗剤等の容器を片手でもって簡単に開けることができるようになり、開封性を向上させることができる。なお、係合部(25)や突起部(17)(18)の突出高さは、手指で操作できるような高さであればよいため任意であるが、0.5~1.5mm程度が外観上好ましい。

【0011】そして、容器を組み立てるときには、軸部材(15)に嵌入部材(22)(23)を嵌入させるという簡単な作業だけで済み、かつその作業はPPなどの合成樹脂で成形されていることによる弾性を利用して楽に行えるので、組立性を損なうことがなく、容器本体(10)と蓋体(20)の枢支部をこのような構成にすると、開封後、蓋体(20)を持って容器本体(10)を持ち上げたとしても、嵌入部材(22)(23)が軸部材(15)を堅固に抱え込んでいるので、容器本体(10)を確実に支持することができ、従来のように蓋体(20)が簡単に外れてしまうような不具合は生じない。

【0012】また、図1で示すように、容器本体(10)は内容物を充填後、蓋体(20)を被装する前にフ

ィルム状の蓋材(30)で封緘されるようになっており、計量用のスプーン(1)がその蓋材(30)上の所定位置、例えば枢支部寄りの隅角部近傍に装返した状態で載置され、蓋体(20)を容器本体(10)に被装したときに、蓋体(20)の内面に突設した薄板状の抑止部材(27)(28)でその計量用スプーン(1)を位置固定するようになっている。この抑止部材(27)(28)は長辺方向及び短辺方向にそれぞれ平行になるように2つ突設されており、計量用スプーン(1)の略矩形形状の匙部(2)がこの抑止部材(27)(28)によって2方向から挟み込まれ、蓋材(30)と蓋体(20)の間で動かないように規制されるようになっている。

【0013】なお、図5で示すように、計量用スプーン(1)の匙部(2)の隅角部(2a)は丸く形成することが好ましく、これによれば、蓋体(20)を枢支部を中心に回動させた際、蓋材(30)上に載置した計量用スプーン(1)に多少の位置ずれがあっても、抑止部材(27)(28)はその隅角部(2a)に当接しながらスムーズに下降することができ、計量用スプーン(1)の位置を微調整して確実に位置固定することができる。また、計量用スプーン(1)が抑止部材(27)(28)で位置固定されていることを簡単に確認できるようにするため、蓋体(20)は透明にすることが好ましく、この方が販売に供されたときにも、消費者が計量用スプーン(1)の添付を一目で確認できてよい。また、この場合、広告宣伝用の印刷は蓋材(30)に施せばよく、コストの削減を図ることができる。

【0014】また、蓋材(30)には開封したときにその一部が残ったままになるような開封手段が設けられている。すなわち、例えば図1、図2で示すように、長辺方向約2/3程度の所にハーフカットが施された切取線(31)を設けて、蓋材(30)を開封した際に、約1/3程度の蓋材(30a)が残ったままの状態になるようにしている。これは、計量用スプーン(1)の匙部(2)で掬った粉粒体を、この残った蓋材(30a)で擦り切ることができるようにするために、別途擦り切り用の部材を設ける必要がないようにしてコストの削減を図るようにしたものである。なお、蓋材(30)に設ける開封手段としては短辺方向に延伸した一軸延伸フィルムを積層したフィルム材を用い、切取線(31)の端部に開封作業が楽に行えるようにする切欠部等を設けてもよい。

【0015】そして、蓋材(30)が開封された後は、計量用スプーン(1)を開封前の位置に載置することができなくなるので、長辺方向に平行な抑止部材(27)によって蓋体(20)の内面に保持できるように構成されている。すなわち、図2、図7で示すように、計量用スプーン(1)の柄部(3)に抑止部材(27)の長さ(L)より極僅かに短い長孔(3a)を穿設し、抑止部

材(27)をその長孔(3a)に嵌入させることによって、計量用スプーン(1)を蓋体(20)の内面側に若脱自在に取り付けられるようにしている。なお、このとき、抑止部材(27)の略中央には、先端が2股に分かれるような切欠部(27a)が形成されて、若干の弾性を持たせられるようになっており、嵌入作業がしやすいようになっている。また、抑止部材(27)の外方側(又は内方側でもよい)には段差部(27b)が形成され、計量用スプーン(1)の柄部(3)がその段差部(27b)に当接することにより、不用意に深く嵌入されないようになっている。

【0016】

【発明の効果】以上、本発明によれば、粉粒体の包装に用いられる容器本体と蓋体とからなる容器において、容器本体の縁部に付設した軸部材に、蓋体の縁部に形成した略筒状の嵌入部材を嵌入させることによって、蓋体を容器本体に対して回動可能に枢支したので、組立性を損なうことなく容器本体と蓋体との枢支部の嵌合を堅固にすることができ、容器本体から蓋体が簡単に外れてしまうような不具合は生じない。また、容器本体の縁部に、蓋体の縁部に形成された係合部を係止する係止部を突設するとともに、その係止部の両側に突起部を突設したので、容器を片手でもって簡単に開封することができる。

【0017】また、容器本体をフィルム状の蓋材で封緘し、その蓋材に、開封時にその一部が残ったままになるような開封手段を設けたので、計量用スプーンを蓋材と蓋体の間に設けることができ、残った蓋材をその計量用スプーンの擦り切り用として利用することができる。しかも、蓋体の内面に、計量用スプーンを位置固定する抑止部材を突設したので、蓋材と蓋体の間に設けた計量用スプーンを動かないように規制することができ、更には、その蓋体を透明にしたので、計量用スプーンが抑止部材で位置固定されていることを簡単に確認することが

でき、消費者に計量用スプーンが添付されていることを積極的にアピールすることができる。そして、蓋体の内面に突設した抑止部材に、計量用スプーンが保持されるように構成したので、開封後にも計量用スプーンを好適に処置することができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明にかかる容器の開封前の状態を示す斜視図

【図2】同上の開封後の使用状態を示す斜視図

【図3】容器本体の平面図

【図4】蓋体の平面図

【図5】容器本体と蓋体の枢支部を示す概略背面図

【図6】同上の概略側断面図

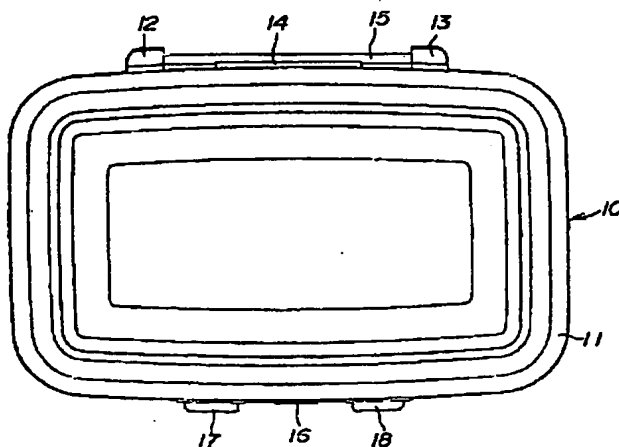
【図7】容器本体と蓋体の係合部を示す概略正面図

【図8】同上の概略側断面図

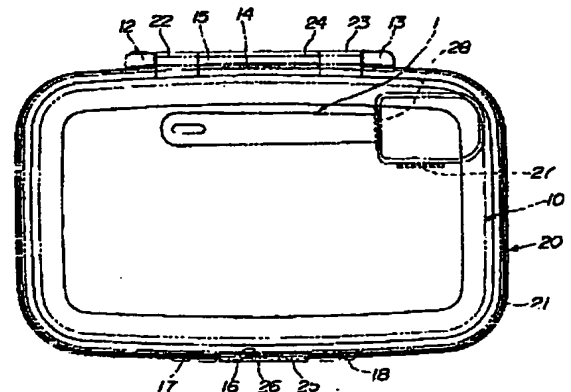
【符号の説明】

- 1 計量用スプーン
- 2 匙部
- 3 柄部
- 10 容器本体
- 15 軸部材
- 16 係止部
- 17 突起部
- 18 突起部
- 20 蓋体
- 22 嵌入部材
- 23 嵌入部材
- 25 係合部
- 26 突起部
- 27 抑止部材
- 28 抑止部材
- 30 蓋材

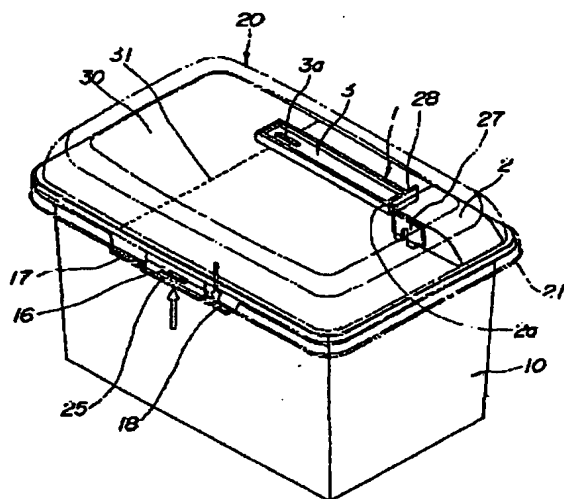
【図3】



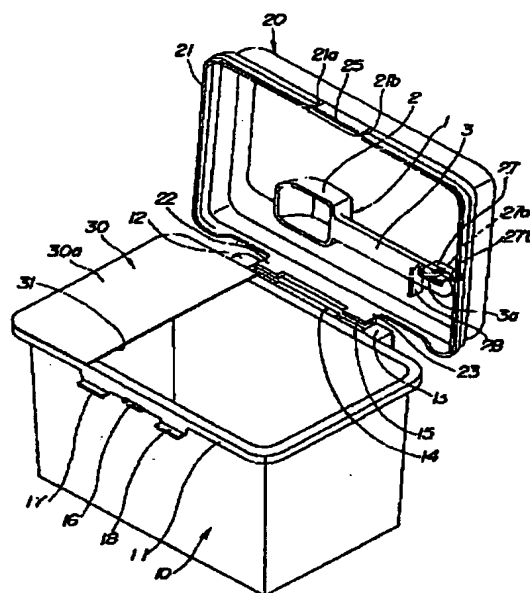
【図4】



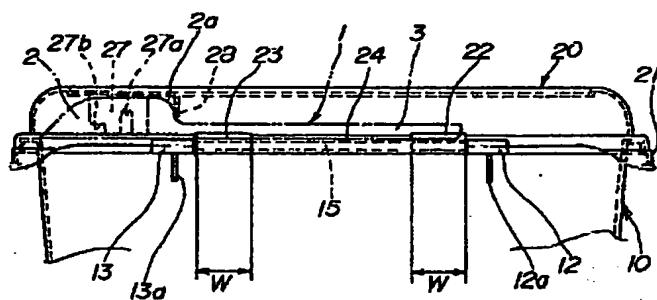
【例1】



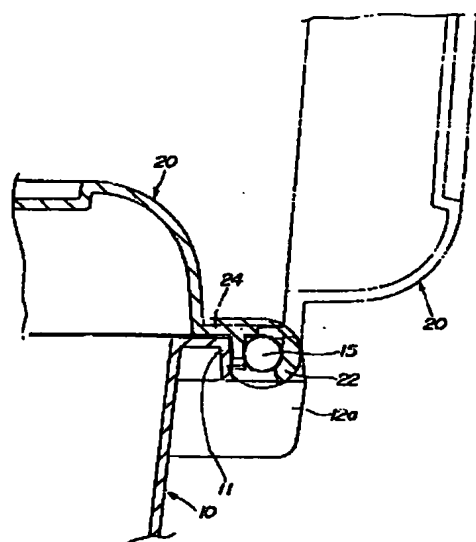
【図2】



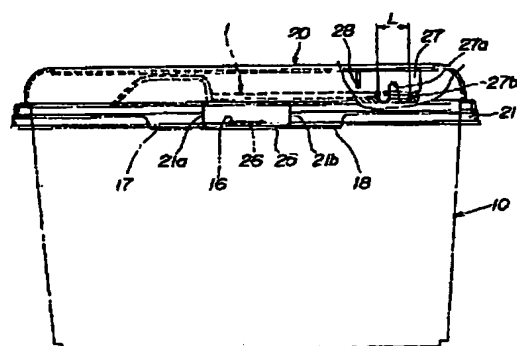
【图5】



【図6】



【図7】



【図8】

